

令和8年度 第1回 運営方針会議 議事録

日 時：令和8年6月25日（木）10時30分～12時50分

場 所：本部棟5階大会議室 ※Web 会議併用

出席者：金出委員、久能委員、澤田委員、中西委員、平野委員、稲垣委員、岩井委員、
江上委員、北川委員、湊総長

欠席者：堀場委員

【 議 事 】

1. 令和7事業年度決算について

令和7事業年度決算について説明があり、審議の結果、原案どおり決議された。

2. 国際卓越研究大学について

国際卓越研究大学の認定申請及び国際卓越研究大学研究等体制強化計画の認可申請の手続きを行うことについて説明があり、審議の結果、原案どおり決議された。

あわせて、今後、文部科学省及びアドバイザリーボードとの調整により生じる修正については、総長に一任することについて了承された。

■ 委員からの主な意見（○：質問・意見 ●：説明・回答）

○アメリカの大学の場合は、教員も学生もデパートメントに対して所属意識があり、学外からもそのように見られている。本来、研究と教育は不可分なものではないか。

●実態としては研究と学位研究指導等の教育がデパートメントで一体的に行われるものと考えている。研究領域（デパートメント）の単位でレピュテーションを高めていけるようになることが望ましい。

○組織運営において、例えば教育と国際、研究と国際のように複数の要素がオーバーラップするものについては、その業務のすみ分けや指示命令系統を特に明確にしておく必要がある。

【 報 告 】

1. 総長選考について

総長選考の結果について報告があった。

2. 法人評価（第4期中期目標期間の4年目終了時評価）における業務の実績に関する報告書等について

法人評価（第4期中期目標期間の4年目終了時評価）における業務の実績に関する報告書等について報告があった。

■ 委員からの主な意見（○：質問・意見 ●：説明・回答）

○個別の課題だけでなく、全学的な課題を指摘しやすくなるよう、報告方法をブラッシュアップする必要がある。

3. 令和7年度資金管理実績報告について

令和7年度資金管理実績について報告があった。

4. 基金造成計画策定に向けた取り組みについて

国際卓越研究大学に認定された場合、大学独自基金を造成していく必要があり、基金造成にあたり必要と考えられる基金の運営（運用）ルールについて報告があった。

■ 委員からの主な意見（○：質問・意見 ●：説明・回答）

○25年で独自基金が1.2兆円という認可要件に関して、財務収益等とは何を指しているのか。

●財務収益等は、資金運用による収入を示している。資金運用の元本をなるべく大きくすることで運用リスクを抑えながら持続的な収益を確保することができると考えている。そのため、当面は運用資産の基礎となる外部資金の獲得に注力したい。

○ダッシュボードにおいて管理をする際、1.2兆円の独自基金を実現するための道筋としてアップフロントで増やした場合には後年度は楽になると思うが、そのためのシミュレーション機能は今後追加されると考えてよいのか。

●シミュレーション機能を付け加えることも検討している。月々の状況を見ながらきめ細かく管理していきたい。

○企業からの外部資金受入が鈍化している傾向にある。例えば、知財収入はiPSに依存している体質があると以前から指摘されている。ファンドレイザーを増やす方法もあるが、今後どう対応するのか。

●成長戦略本部が総合研究推進本部やデパートメントと密に連携し、人的な連携やデータ連携も進め、研究と社会実装をつなぐトランスレーショナル機能を強化していきたい。また、国際卓越研究大学に認定された場合、獲得した外部資金に応じて助成金が措置されることとなるため、寄附金の獲得拡大にも努めたい。

5. リスクマネジメントについて

リスクマネジメントに関する検討状況について報告があった。

■ 委員からの主な意見（○：質問・意見 ●：説明・回答）

- 各種システムの導入にあたり、AI を用いて脆弱性を判断するといった活用手法もある。
- 学内での事務処理をはじめ AI を活用しているが、今後も様々な活用の可能性を検討したい。
- 総長をはじめとした各組織のリーダーが、共通の価値観（バリュー）を持つことが業務やリスクマネジメントを行うにあたり重要である。そのうえで、京都大学らしい大らかさをもって「自由の学風」を発展させることが重要である。
- 研究不正は、研究資金不正使用等に比べ、専門家であっても不正であるか否かの線引きが難しい面もある。

6. 令和8年度監事監査計画について

令和8年度監事監査計画について報告があった。

■ 委員からの主な意見（○：質問・意見 ●：説明・回答）

- リスク管理体制についてもいずれは監査いただきたい。